

成果報告書

地域部活動推進事業

担当部署	山梨県教育委員会義務教育課		
所在地	山梨県西八代郡市川三郷町	運営形態	地域移行 ・地域文化芸術団体等運営型
運営主体	市川三郷吹奏楽団		
課題	楽器毎の演奏指導者、部員の専門知識の不足 顧問教諭の業務多様化及び多忙化		
事業目標	生徒の継続的で質の高い文化芸術活動と、教員の働き方改革を推進するため、市川三郷吹奏楽団が市川中学校吹奏楽部指導に関わることで、教員の多忙化解消、専門的指導に繋がり、地域に根付いた文化芸術活動が推進される。		
団体・組織等の連携	<pre> graph LR A[文化庁] -- 委託金 --> B[市川三郷吹奏楽団] B -- 指導 --> C[市川中学校] C -- 活動場所 --> B </pre>		
拠点校等	市川三郷町立市川中学校		
活動場所	市川中学校、ifセンター		
活動概要	週末の部活動における、パート別楽器別練習における個別指導、及び合奏練習時における指導助言。		

○本事業による成果

・吹奏楽が多種多様な楽器を扱う特性上、役割及び楽器構造に応じた専門性のある指導が有効であり、生徒の技術向上及び、顧問教諭の負担軽減に有効であったと思われる。

・今後の継続的な指導を望む声が多数寄せられている。部員生徒からは特に専門的指導を喜ぶ声大きい。

・部活動の運営においても、大会参加の際の機材搬送、活動上一定以上の部員数が必要である事、必要備品消耗品が他部活動に比べ高価であること、また、コロナ禍における管楽器演奏であることに由来して別途感染対策等の実施、など「音楽教育上、演奏技術上」以外の観点でも、多様な知識と工夫を要する部活動であるため、演奏指導面での補助だけでも顧問教諭の心理的負担については軽減できたと考える。

・従事時間等の観点においては、実質的な運営業務が多岐であるが、直接的な業務分散は困難であり、生徒指導上も安全管理責任の面では外部団体が負う事は難しく、業務時間の削減という意味ではどの程度効果が得られたかわからない。

○児童・生徒への指導に関する工夫

・パート毎の指導を基本として行った。その際、練習内容や次回までにできるようにして欲しいこと等をノート(各パート1冊用意)にまとめ、生徒がいつでも見返せるようにした。また、指導者も毎回同じとは限らないため、次回の指導者も前回の内容がわかるように記入ができるよう、統一した形式を準備し記入するようになった。

・大会前は指導者を増員して対応し、生徒一人一人に目がいくようにした。

・生徒の習熟度を見ながら、パート毎の指導だけでなく個人の練習を行う等、その都度生徒に合った対応を心掛けた。

・生徒に指導を行うだけでなく、合同出演の機会も設定したが、運営上の課題により実施できなかった。

・生徒と楽団員の合同出演の機会を企画(都合により未実施)。

○運営上の工夫

- ・指導日程は半期ごと設定し、予定を立てやすく見通しの持った指導を行った。行事や大会前には指導人員も追加し、手厚く指導にあたった。
- ・指導経過記録ノートにより、指導者間も引継ぎを強化しながら実施した。
- ・指導人員の団内負担の均一化のため、実施曜日を前半後半で分けて設定した。

○継続的な運営に関する課題

- ・市川三郷吹奏楽団は一般の市民からなる楽団のため、楽団員によって知識や専門性に差があるため、パートによっては指導できる楽団員が限られてしまう。
- ・今回(昨年度・今年度)の実践においても、継続的な指導かつ、各楽器の多様な知識及び経験のある人員が有効であったため、大人数の複数回の動員が必要とされた。同程度の内容を今後実践していくには予算確保も課題と考えられる。
- ・昨年度の課題を受け、本事業でifセンターを活用する機会が計画され、一部の日程は有効に活用できた。感染症対策等の関係で中止にした回や、連携上の問題で予約状況の確認が遅れ、一部の部屋を有効利用しきれなかった回もある。
- ・生徒指導や安全管理責任の面で外部団体が対応をすることが難しい。教員との連携の在り方について検討する必要がある。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

- ・部活動を地域移行することで、一般の吹奏楽団の後進育成に繋がると考える。山梨県は吹奏楽人口が少ないため、楽団を維持する意味でも、地域に根差した活動を行い将来の楽団員確保を考えることは重要である。その際、練習場所を確保することが第一の課題であるとする。学校外での指導ができるよう、学校と市町村と連携を取り練習環境を確実に整える必要がある。
- ・後進育成の点において、入団希望や見学希望の声があがり、成果と考えられる。
- ・指導体制の団内の負担分散について、パート別指導については上半期は日曜日、下半期は全て土曜日と曜日も分散したが、それぞれの仕事の都合もあり、負担の偏りは多少はやむを得なかったと思われる。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	市川中吹奏楽部員30名程度
	募集方法	吹奏楽部員が対象
指導者	人数等	顧問2名、市川三郷吹奏楽団音楽監督1名、市川三郷吹奏楽団員(活動団員52名)
	募集方法	吹奏楽団に委託、団内でスケジュールを受けて調整、分担
参加者の移動手段		自家用車
活動費用	指導者謝金等	賃金1050円/時間、旅費37円/km
	その他	無
活動財源	会費	無
	その他	無
スケジュール	基本活動	週末の部活動における、パート別楽器別練習における個別指導、及び合奏練習時における指導助言。
	年間	4月～7月と10月～1月に指導者派遣 7月吹奏楽コンクール山梨県大会、12月アンサンブルコンテスト山梨県大会、 2月峡南支部吹奏楽祭
保険加入等		加入無

【活動の様子（写真添付）】

